

令和 4 年度 墨田区立 中和小学校 経営報告書

令和 5 年 3 月 10 日

学 校 目 標	歴史と伝統を受け継ぎ、教職員、保護者、地域社会が一体となって、さらなる発展を目指す
目 指 す 学 校 像	教育目標達成のため、全教職員が家庭や地域との連携を図りながら、校外の教育力を効果的に活用し、質の高い教育活動を意図的・計画的・組織的に実施できる学校
目 指 す 子 供 像	自らの生き方を考え、自らの力で将来を切り開くために必要な学力、自他を大切に する優しさとレジリエンス、たくましい体と強い意志をもつ子供
目 指 す 教 師 像	保護者や地域の期待に応え、学校組織の一員としての自覚と責任をもち、教育目標 の実現と教育課程の計画的実践に全力で取り組み、児童のよさや可能性を最大限に 引き出し伸ばし、個々の将来につなげていくために組織的に取り組める教職員集団

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施しているか。	B	・ICT 機器を効果的に活用した授業の展開を通して、基礎学力は定着してきた。今後は ICT 機器と紙ベースでの学習の棲み分けを考えるとともに個別最適な学びの充実を図る。 ・「モノグサ」や「ミライシード」等のデジタルドリルや「ふりかえりシート」等を活用し、基礎基本の定着を今後も継続していく。	A	A
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対しての、組織的な支援等を行っているか。	B	・スクールカウンセラー等との情報共有の時間を確保し、連携を図ることができた。校内委員会を開催し、支援を必要とする児童へ早期に対応策を練り、実施・評価・改善を行う。	A	A
	学校は、社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。	A	・コロナ禍により制限があったものの、できる限りキャリア教育につながる活動を実施した。今後も地域教材の開発や地域人材の活用を図り、子供の「生きる力」を育てていく。	A	A
	学校は、教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う。	A	・年 3 回 ICT を活用した相互授業観察の実施や研究 OJT による事前検討会実施、校内研究授業を年 6 回行い、タブレットを効果的に使った授業を構築してきた。タブレットを使うことが目的にならないように取り組んでいく。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等		・コロナ禍で制限のある中、子供の学びを止めないようご尽力くださる先生方に大変感謝している。タブレット学習は進んでいると思うが、使いすぎによる健康被害が心配されるので、対策をしてほしい。		

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活	学校は、いじめ、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取組等を行っているか。	A	・不登校の児童に対し、定期的に支援会議や保護者・児童と連絡をとり、関わりを途切れさせないよう努めた。今後も早期対応と児童の心に寄り添う丁寧な支援を繰り返して解決を目指す。	A	A

様式 4

指導等	学校は、基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組んでいるか。	B	・中和スタンダードを励行し、学習規律や生活面での共通理解を図っているが、教員間で共通理解が不十分なところが見られたので、再度見直し、共通理解を図っていく。	B	B
	学校は、危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組等を行う。	A	・新しい学校生活様式を身に付けてきたところではあるが、アフターコロナに向けて社会や環境に合わせていけるようにする。 ・毎月の避難訓練や安全指導で児童の意識を高めてきた。考えられる危険に対応できるよう、不審者対応訓練や洪水等のあらゆる災害に備える訓練を実施していく。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の児童に対し、丁寧な対応をしていると思う。学校が全てではないが、その時にしか経験できないことをあるので、学校とのつながりを切らないようにしていただきたい。 ・教員間の共通理解がとても重要だと思う。早期に対応をじてほしい。 			
項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校の管理運営	学校は、経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行っているか。	B	・働きやすい居場所作りと働き方改革の実施を目指したが、教員間のコミュニケーション不足を感じた場面が見られた。コミュニケーションが取りやすくなる環境と手順を構築していく。	B	B
	学校は、子供の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行っているか。	A	・児童の実態をしっかり把握し、配慮が必要な児童に対しては丁寧な指導を行う。 ・外部評価アンケートでの肯定的な評価90%以上は達成したが、今後も児童の実態をしっかり把握しながら学校運営を行う。	A	A
	学校には、適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整えているか。	A	・空き教室が全くない状況ではあるが、空きスペースを活用した掲示や定期的な環境整備、教育活動に有効な活用を今後も模索していく。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・空き教室がない状況なのは承知しているが、図書室がもう少し広いと子供たちの読書量も増えるのではないかな。 ・教員の働きやすさが、子供たちの教育にも影響すると思われる。働きやすい環境作りを推進してほしい。 			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行っているか。	A	・学校・学年便り、行事プログラム等は、特色ある教育活動を伝える重要文書として作成してきた。さらに教育目標や教育方針を伝えられるよう、ホームページ等の充実はもちろん、家庭へのさらなる啓発を行う。	A	A
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行っているか。	B	・コロナ禍においてコミュニケーション不足が見られた部分がある。学校からの連絡等も分かりにくいという評価が3割程度見られた。保護者との連絡を密にし、地域やPTA行事等にも参加できる体制をとる。	B	A
	学校関係者評価委員会の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ということもあり、教員と保護者とのコミュニケーションが不足していたと思う。子供たちの活動の様子や学校の様子をさらに発信してほしい。 			

様式 4

2 令和4年度学校評価のまとめ

- ・ICT機器の活用を図る学習指導の工夫の結果、一定の成果を上げることができた。今年度の課題を踏まえ、引き続き、校内研究を通して、タブレットを活用した授業の充実を図る。
- ・保護者アンケートにおいて評価の低かった項目では、「分からない」と回答した方が多く見られた。学校の良い取組を様々な方法で適切に情報発信し、学校と保護者や地域との連携を確実なものにしていく。
- ・今年度もコロナ禍で教育活動に制限のあった一年だったが、学校の取組に対して感謝と労いの言葉をいただいた。これからも「学びを止めない」姿勢を大切に、子供たちがのびのびと楽しい学校生活を送ることができるよう、保護者や地域の期待に応えていきたい。
- ・今後も、保護者や地域の皆様が学校に対する思いや期待をしっかりと受けとめ、墨田区の伝統校として、さらなる発展ができるよう、教職員一丸となって努めていく。

以上の通り報告いたします。

墨田区立 中和小学校 校長 影山 祥仁 公印